みみうち

きこえにくい人と関わる方へ

きこえにくい子を指導する方に知ってほしいこと

基礎コース

長崎県立ろう学校
自立活動部　地域支援班
2023.9　vol.21

きこえにくい子と接するときに意識したいこと

きこえにくい子の指導の中で、どのようなことを意識して接しているでしょうか。聞こえに配慮した接し方をされていると思いますが、聞こえを補償するだけでよいのでしょうか。指導の中で、将来につながる力を身に付けさせるために意識して接したいことをお話しします。

１　聴き取りやすい話し方

まずは、話し手に注目させましょう。誰が話しているか意識すると、聴き取りやすくなります。話し手は、顔を向けて表情や口形を見せるようにしましょう。大きめにゆっくりはっきり話すことは大切ですが、必要以上に区切ったり、言葉のもつリズムやイントネーションを崩したりしないようにしましょう。

※　具体的には、*みみうち* vol. １、７を参考にしてください。

２　視覚的な情報の提示

板書や視聴覚機器などを活用し、情報を文字化したり図や写真などを用いたりして分かりやすく提示することは大切です。音声だけで伝えると、誤って捉えてしまうこともあるので、見て確認できるようにするとよいでしょう。特に新しい言葉は聞き間違えて覚えてしまうことがあるので、文字を示し読み方を確認しましょう。きこえにくい子供だけでなく、周りの子供にとっても確実に伝えることができるので、是非取り入れていただきたいことです。

※　具体的には、*みみうち* vol. ８を参考にしてください。

３　適切な指示の出し方

指示を出すときは具体的に伝えましょう。「ここ」や「そっち」などの「こ、そ、あ、ど」をできるだけ使わず、具体的な場所や物を伝えるようにしましょう。具体物の名称など繰り返し使うことで日本語の習得にもつながり、視覚的に困難がある子に対しても有効な指示となります。

また、個の発達段階に応じた表現を使って説明をすることも大切です。分かりやすい表現ばかり使うと、新しい表現を知り使う機会が少なくなります。日常生活の中で様々な表現を使うこと

で、新しい表現を知り、身に付けていくのです。少しずつ難しい熟語や表現を使うなど工夫してみましょう。

最後に、指示を出した後は理解できたか内容を確認するようにしましょう。伝えただけでは、どれくらい理解できているか分かりません。指示が分かっていなくとも、周りを見て行動して、「できている」「分かっている」と誤解してしまうこともあるので要注意です。「何」を「いつ」、「どこ」に「どのように」するのか復唱させたり問い返したりしてみましょう。

４　ことばを育てる意識

きこえにくい子は日本語を聞いて学習することが難しく、意識的に言ったり書いたりして日本語を覚える必要があります。伝える側が正しい日本語を意識し、話す内容を整理し、簡潔に分かりやすく話すことを心掛けましょう。

きこえにくい子が誤った言葉を発したときは、その都度訂正をして言い直させましょう。不正確な発音をした場合は、正しい発音を聞かせ、模倣させます。単語だけや不完全な表現の文で返答した場合は、正しい文章を言ったり書いたりして、再度言わせましょう。発音や助詞の使い方、用言の活用など日常生活の中で繰り返し使うことで、正しい表現が身に付いていきます。

子供の言動を文章化して提示したり声を掛けたりすることも大切です。一緒に行動したときに「〇〇をつくったね」「〇〇を工夫したね」「負けて悔しいね」など気持ちや行動を代弁し、子供にも使うよう促しましょう。自分の体験を文章にすることで、そのときの行動や感情を日本語の表現で意識付けることができます。

５　体験を見守る

周りの子供たちと一緒に活動するとき、手間取っている子供を見るとつい手を貸してしまいがちです。子供は経験の中からどのようにすると失敗し、どのようにするとうまくいくのか学び取っていきます。初めから大人が手を出すと、試行錯誤しながら経験を積むことができなくなります。自分ができることとできないことを区別する力も大切です。できないときはどうするのか判断し、行動する力につなげましょう。

できないときは指示されたことを復唱させたり、確認させたりして、何をしなければならないのか考えるよう促しましょう。順序立てて考えたり、他者に聞き直させたりして、自ら行動しなければならないことを自覚させましょう。

子供が困っているときは、何かお願いすることはないかと声を掛けるなどして、子供から「手伝ってください」「教えてください」などのことばが出るように見守りましょう。「待っていたら助けてもらえる」と思うと、受け身の姿勢が身に付いてしまいます。自ら援助を依頼する力も身に付けさせましょう。